

東ティモール事務所からひとこと

東ティモール国内の観光地や伝統工芸、文化的イベントを紹介する冊子や映像は少なく、また技術を持つスタッフも限られています。写真の撮影方法や、カメラ操作に関する指導を通じてスタッフの能力向上を図りたいとの声があり、今回の要請につながりました。前さんは、その熱心さから配属先のみなさんにたいへん頼りにされていました。



企画調査員\* (ボランティア事業)  
高久 将一 (たかくま かずかず)

\* 隊員の活動全般を支援する「ボランティア事業支援のプロ」。また相手国の要望を調査して要請開拓を行うなど、隊員活動全体の運営を担う。

+one information

とりこになったアイマナス

東ティモールの大衆食堂はどこもメニューがだいたい同じで、味つけもほとんど差がありません。そんななか、店でいちばん個性を發揮するのが唐辛子を使った調味料「アイマナス」です。もともと辛い物が好きな私は、赴任してからすぐとりこになりました。アイマナスは「唐辛子」という意味を持つ現地の言葉ですが、この調味料のことを東ティモールの人はアイマナスと呼んでいます。

食堂では主食となるご飯、ボリューム満点の肉か魚のメイン、濃いめの味つけがされた野菜の副菜が一皿に盛られた料理を食べることが多く、これにアイマナスをつけて食べます。ほかにも蒸かしたサツマイモやバナナの天ぷらといった甘いものをはじめ、現地の人は本当に何にでもつけて食べるのです。

最大の魅力は、店ごとに味つけが違うところです。甘辛いケチャップのようなもの、塩辛い小魚入りのもの、唐辛子だけの激辛のもの、ほぼレモン汁のような酸っぱくて辛いものなど驚くほど違いがあります。私はこれらをひとくくりにしてアイマナスと呼ぶティモール人のおおらかさが好きです。

知れば知るほど奥が深いアイマナス。私は好みのアイマナスを置く食堂探しが趣味になり、現地の人のように食べ物には何でもつけるようになりました。なかでもおいしかったのは、野菜がたっぷり入った同僚の手作りアイマナスです。「あなたのアイマナスがいちばん好きだ」と伝えてからは「まだ家にあるか? 新しいものを持ってこようか?」と気にかけてくれ、つねに家にストックされる状態に。今ではあの味が懐かしいです。



イラスト ● さかがわ 成美



ワークショップは週に1度開催された。カメラの台数に限りがあるため人数を絞って行われた。

カメラの  
構え方は  
ばっちり!



アタウロ島の伝統工芸品である木彫り人形の展示会の様子。実際に島へ行き、制作過程を撮影した動画を同時に上映した。

見応えが  
あります



全国13県から県代表のダンサーを呼んだ4日間にわたるイベントを、前さんたちが企画・運営したことも。

てしまい集中力が切れてしまう人もいます。そのため、積極的にこちらから話しかけ、冗談などを交えながら楽しく学べるように心がけました。言葉では伝えきれない「伝えたいこと」を、写真を通じて表現するすばらしさが、現地で日々をともした人たちの心に少しでも届いていたらうれしいです。活動を通じて、私自身も東ティモールの伝統や工芸品の魅力を知りました。ゆくゆくは日本で販売するなど多くの人へ伝えたいと考えています。



JICA海外協力隊  
がゆく Vol. 28

フォトグラファーとしての経験を生かし  
写真を通して表現することの  
すばらしさを伝えた隊員を紹介します。

構成 ● 坪根育美

東ティモール  
前 美友己

まえ・みゆき  
出身地:和歌山県 職種:写真  
任期:2018年10月~2020年8月(特別任期短縮)



首都:デリ  
東ティモール

写真だからこそ  
伝えられることがあります!



前職では、卒業アルバムを制作する会社でフォトグラファーとして働き、写真撮影と編集のスキルを培いました。このときの社長がJICA海外協力隊の応募経験があり、「興味があるなら受けてみてはどうか」と勧めてくれました。さらに話を聞くうちに、写真を通じて国際協力に自分も貢献したいと思えました。

私は東ティモールの首都デリ

にある教育省の芸術文化総局(以下、芸術局)に配属されました。芸術局は、同国の芸術・文化の発展を目的とした事業を行う国の機関です。同国では冊子や映像制作の技術を持つスタッフが限られていることから養成したいとの希望があり、私はここで芸術局が企画・運営する展示会などのイベントの写真撮影を行うとともに、撮影方法を教える活動に取り組みしました。なかでも、定期開催している東ティモールの伝統的な踊りや伝統工芸品に関するイベントでは、配属先の同僚を指導しながら撮影をする当日だけでなく、開催前の準備にも力を入れました。たとえば展示用のパネルや配布用のリーフレットなどに使用するための写真撮影をはじめ、イベント会場で上映する動画撮影も行いました。この動画は、教育教材として現地の小学校と中学校にも提供しました。もうひとつ大事な活動として、芸術局のスタッフに対してデジタル一眼レフカメラについてのワークショップを週に1度開催しました。まず基本的な使い方から教え、次にイベント時の写真、集合写真、三脚を使つての物撮り写真など、できるかぎり同僚の仕事で必要性の高い撮影方法を伝えるようにしました。参加者のなかには、初めは興味を持っていてもすぐに飽き